物流相談.com
.b-soudan.com
物流相談 検索
アジア各国での物流相談も承ります。
ISO 9001
ISO 14001
EDISON
株式会社

(一社)日本ガス協会
西野部長 様

物流ウィークリー
2012年12月10日号9面
(カラーページ・環境特集より)

保有し、回収油は本社で精製し、熱処理で添加剤を加え燃料にリサイクルしているが、重油の代替として工業用ボ

地区でも着実にシェアを伸ばしている。

もともと地下タンク

業所の川瀬昭人所長と藤久部長

れている。今年に入って廃油を動力にしたボイラー（エースボイラ）を開発し、今月から販売を始めた。

廃油回収では、小回り

NGVチャンピオン賞

エコトラックが受賞

国際天然ガス自動車協会主催

エコトラック（大阪府門真市）は国際天然ガス自動車協会（NGV Global、本部ニュージーランド）主催の「12年NGVチャンピオン賞」を受賞し、記念トロフィーを日本ガス協会を通して4日に授与された。

同社は平成11年、全車両低公害車の貨物トラック運送会社として設立。創業以来、12期連続で増収を続けている。また、行政や全国の小中学校と協力して環境保全の啓蒙活動を続けている。

授与式に出席できなかった池田治子社長は、「地球温暖化対策として運送事業者でもできることは何かと考えた。一人でも多くの人にこの問題を考えてほしいと思い、天然ガス自動車の優れた環境性と高い実用性をアピールしてきた。今回、このような高い評価をいただき感慨深く受け止めている」とビデオレターで受賞の喜びを述べた。授賞式では池田雅信取締役がトロフィーを受け取った。

トロフィーを受け取る池田取締役

同社は現在約70台を保有し、大型車6台を含む六十数台がCNG車で残りはハイブリッド車。

NGV Globalは国際会議を隔年で開いており、今年は11月7日に開催。この会議に合わせ「NGVチャンピオン賞」を新設。日本ガス協会が、天然ガス自動車の普及に貢献したとしてエコトラックを候補者に推薦した。（小澤 裕）

グリーンエコ っと参加を

滋トラ協

ト協発の「グリーンエコプロジェクト」。トラ協でも9月にスタートを切った。現在、263台が燃費向上に取り組んでいる。

「大トラ協や兵トラ協でも関心を持っている」などの声が出るなど、プロジェクトの輪が広がりつつある。しかし、参加者から「負担が大きい」などの声も。坂口和男委員長（坂口運送）は、「負担については、経営者とドライバー双方の意識を高め

（大塚 仁）

通事故が3割ほど減ったと聞いている。来年度以降の目標や数値などは決まっていないが、短いスパンの計画ではなく、息の長い計画を立てればいい」と同委員長。「会社にも従業員にもプラスになる事業。軽油価格も高騰しており、もっと多くの参加を期待している」

コスト削減と エコの両立を

船井総研

船井総研の橋本直行シニアコンサルは「これから数年は続くと思われる厳しい時代では、コストダウンとエコを両立させる取り組みをしていかなければ

「エコ」と指摘。そこで、社内で「エコプロジェクト」を立ち上げることを奨励する。

具体的には、「企業活動の隅から隅まで、

は、やり過ぎると従業員のやる気を削ぐリスクがあるが、『エコ』なら大義があり、やる気が出てくる」という。（大西友洋）

「ミームス」取得 環境意識が浸透

久居運送

久居運送（菅内章夫社長、三重県久居市）

ムス）の認証を取得、その後も更新を重ね、今年3回目の更新に成功し、ミームス代表理事の田中正一氏から登録証を受け取った。

同社は同15年にGマークを取得。その後、グリーン経営の認証取得に向けた取り組みも視野に環境活動を行ってきたものの、現在進行形での取り組み内容を重視するミームスに魅力を感じた。目標に掲げるのは燃費向上、電力使用量削減、毎月1回の事業所周辺清掃の3点。燃費向上目標を設定し、達成者を表彰するなど全員参加の仕組みも構築し、「環境意識が社内に浸透している」。（加藤 崇）

二好支店で 売電を開始

大宝運輸

大宝運輸（小笠原忠社長、名古屋市中区）は来年3月、みよし市の三好支店で売電事業を開始する。

地域の企業へ、環境にやさしい太陽光発電エネルギーを提供。同支店は鉄骨造り3階建て。屋根面積の7割にあたる3400平方メートルに、最大出力500キロワットを発電するソーラーパネルを設置した。

発電時間は、日照時間、季節などを考慮。1日3時間程度、年間980時間を見込む。（戸嶋直哲）